とでも云ふであらうが其從者相互の間は姉妹でもなし親類でもなし相弟子でもなければ同行信者とも云はれず先づ家に飼てある一羽の牡鷄に二三羽の牝鷄が附て居る其牝鷄と牝鷄とのやうなものだから何とも其間柄の關係に名の付けやうがない兎に角に交際は至極近いやうで其實は甚だ遠いのみか內實の正味は敵同士に違ひはない此睨合ひの敵同士も無鐵砲な主人が生きてる間は主人の御威光、御金の光で、どうやらかうやら表面ばかり取繕ふて居るけれども相互の內心は知れ切つた事だソコデ以て其母親の産んだ子は自分のほんとうの子だから不斷內證の事も話して聞かせる中に敵同士の相手の母親のをを惡く云ふは勿論その敵の産んだ子の事も善くは言はない、ひよつとしたら自分の不平な時には親仁の事も惡く云て聞かせるだらうソコデ今女子敎育論者とか何とか云ふ人達の鶺鴒石――掛たる者の言行能く其所生兒を感化すと云ふをが本當ならば腹違ひの子供は織にイヤハヤ十分に母親に感化せられて兄弟喧嘩の修業は見事に出來て何時でも差支のないやうに卒業した者であらう昔しの大名などの家を見るが宜い兄弟姉妹眞實睦じい者は百に一も珍らしいではないかマダ其上に二代目の子供の目から見ると親仁の行ふた事は隨分惡くないもので大概の事は能く見える、能く見えぬでも惡くは見えない、ソコで親が生涯不身持な事を遣て居たと云ふみとがどうも小供の眼から見るとそれは左迄の罪でない惡い事ではないと斯う思ふて親の家督も相續すれば親の不品行も相續して又も相替らず親と同じ事をする、夫れから又もや家の不始末が始まり枝から枝がさいて遂に兄弟不和とならねばならぬ、さうして見れば初代の人が折角造出した家も財産も子孫安全の爲めではなくて喧嘩の種子にみそなるだらう後世子孫の爲めに乃公も財産を造つて立派な家を遺して遣らなければならぬと云ふのは後世子孫の爲めに喧嘩の種子を蒔た畑を渡すと云ふみとになりはせぬか少し考へて見るが宜からう

（未完）

應急の用意

日本は只管平和を愛するものにして其曾て支那と戰ひしが如きは度々の侮辱に何としても默止する能はざるが爲めのみ其後遼東の領有は東洋の平和に害ありと云へば則ち直に之を還附し朝鮮の如きは戰勝當然の結果として日本の掌中に歸す可き筈なれども敢て之を私するを好まず日露協商條約を締結して專ら無事を祈るの意を示したり左れば今回の支那問題に付ても平和の終局を望むは勿論なれども日本國民の身體中には血もあれば骨もあり何處まで權利々益を侵害されても徹頭徹尾忍耐するものに非ず否な苟も犯さるゝみとあるに於ては斷然として起たざるを得ず膠州灣の占領は未だ以て直接に日本の利益を損すものとは云ふ可らず旅順の借用も未だ我權利を害するものに非ずとするも今日の勢より察すれば火の手はます〳〵熾にして何れの邊まで延燒す可きや殆んど測る可らず東歐問題は希土戰爭の終局と共に一と先づ落付て差當り混雜の生ず可き憂慮なく英國は其寶庫たる印度に反亂ありて或は思ひ掛たる運動に假本らざるみともある可し佛獨露の三國が今日みそは難て野心を逞うす可き時なりとして今日の運動を始めたるものとすれば猛烈の波瀾は今後いよ〳〵大ならざるを得ず外國電報の傳ふる所に據れば諸強國の運動は次第に步を進めて次第に活潑なるものゝ如し現に露國は旅順を占領して砲臺を修築すると共に清廷に向て英國の技師を解傭す可しと請求したるのみならず今度清國政府に一億兩を貸渡す條件として長城以外の鐵道敷設と鑛山開掘の特權を與ふるみと西伯利鐵道の終極を不凍港に延長するみと總稅務司ロバートハート氏を解雇して其後任に露人を採用するみと等を協議中なりと云ふ獨逸は海陸軍の增遣中にして佛國は瓊州に其國旗を飜したりとの報あり（尤も其後の電報に據れば佛國は左樣のみとなしと打消したるよしなれども同國が袖手今日の形勢を坐視せざるは明なり）而して英國も亦傍觀せず其東洋艦隊は或は舟山列島或は巨文嶋の邊に出沒して爲す所あらんとするものゝ如し危機一髮の間に迫るは目前の事實にして何時破裂するやも測る可らず此間に立て日本は如何に進退す可きか成る可く平和を祈る可きは勿論なれども左ればとて風波いよ〳〵烈しくして將に我家を危うせんとするに至れば袖手傍觀するを得ず露が旅順を占領し佛が瓊州に據るも或は對岸の火災視するを得べし然れども一步を進めて露國が遼東を奪ひ獨逸が山東を略して威海衛の我守兵を追ふも尚は默視するを得るか山東遼東は或は忍ぶ可し更らに朝鮮を併呑し澎湖嶋を借用せんと云ふみとあらば如何斯くても尚は辛抱するみとを得るか而して今日の事機或は延て此に至るみとなしと云ふ可らず隣家火を失して將に我家をも延燒せんとするの虞あるに於ては假令ひ火元に馳せ付けて消防に盡力せざるまでも先づ喞筒を掃除し消防方を警戒して危急に備へざる可らず一令の下、直に總ての力を活用し得るの用意肝要なる可しとして我輩の敢て當局者に注意する所なり

○聯立內閣成らず

新內閣組織に就て伊藤侯と大隈伯の交涉困難の趣きは既に本紙に報じ置きたるが四日午後四時大磯發の特報は左の如し

伊藤侯と大隈伯とは帝國ホテルの會合と大磯に於ける前後二回の會見とを合せて都合三回の款晤ありたるも侯は侯の本領あり伯は伯の本領ありて互に其閱歷關係を異にし一は政黨員を有し一は有せざるの差あるより共に文明主義を奉じ乍ら從來の行掛上合體に困難にして大隈伯は其政黨員の爲めに一身を自由にするみとを得ず伊藤侯は各政黨に對して肝膽相照しての提携は兎も角も憲政の實行上、大臣の椅子を在野政黨に豫約して全體の國利民福を犧牲に供するみと能はず左れば國利民福を增進する爲めに適當なりと思ふ人を採用し思ふ法律を制定するは固より可なれども條件的豫約を以て政黨と結託するが如きは斷じて爲す能はざる所なりとの意見にて侯伯双方の談話は物分れとなり昨今の模樣は結局大隈伯も板垣伯も入閣せずして伊藤侯は其思ふ通りの內閣を組織して其閣員と共に內治外交を一生懸命に實行し以て國民輿論の贊成を期するものゝ如し尤も大隈、板垣二伯のみならば合體の望み絕えて無きに非ざれども自由黨員と進步黨員の折合ひ着かざる限りは眼前に總選擧を控へ居る今日假令ひ二伯の入閣都合よく出來得るとするも總選擧後兩黨員思ひ〳〵の爭訟に對し內閣は判決に苦み果ては內部より破壞するに至るべし故に今日より兩黨員互に和睦して夫れ〳〵苦情の根を絕ちて然る後に板垣、大隈兩伯和睦して入閣するに至らば固より伊藤侯は歡んで迎ふるの意あれども左もなくして煩累を繫くするみとは好まざるの趣きなり依て今は侯も二伯の入閣は到底望んで得らるべきみとに非ずと殆んど斷念して專ら閣員の選定に心を碎き居れるが如し本日山縣侯の歸京したるも多分其爲めならん果して然らば新內閣は結局伊藤侯の好む所に任せて部內の纏り善く而して世間には重きを置かれざる閣員を以て組織せらるゝならんと云ふ

○山縣侯桂子の大磯行

去る三日芳川子と相携へて大磯より歸京せし桂子は四日に井上伯邸を訪ふて長時間談ずる所あり同日歸京せし山縣侯と共に午後六時三十一分品川發の汽車に乘りて再び大磯に赴きたり　（以上三件前號の附錄再記）

○大隈伯の談話

左に揭ぐるは去る三日の夜、伯を大磯に訪へる社員が伯の口より親しく聞きし所なり伯が此際の入閣は今は早や望みなき者の如くなれば三日の夜は伯が伊藤侯と大磯に於ける初度の會見を經て未だ再度の款晤に至らざりし時にして即ち伯と侯と交涉最中とも謂ふ可き機會なれば其機會に於ける伯の談話は直に今日の形勢を表するものとは認め難きも侯伯の交涉が速に首尾好く纏まらざりし次第は此談話に徵して略々窺ひ知るを得可し

昔年に在りて內閣を組織するに當り最も苦心せし事は閣員の遣繰のみなりしが政治は年と共に進步して今日內閣を組織せんには健全なる議會と相待つの謀を爲さゞる可からず往年の超然內閣は復びすべからず更に一步を進めて言へば議會の多數を制し得るの政治家が內閣を組織して始めて責任內閣を見るなれども今日は或は未だ其境に到らざるならんが議會を度外視する能はざるの時勢に達したるみとは既に一般に是認する所なり內閣が議會を無視する能はざると同時に議會も亦內閣を蹂躙す可らず要するに善良なる內閣と健全なる議會と相待つて國政を料理せざる可からず政治は元と公事なるが故に內閣の議會に對する公々然ならざる可からず權謀術數或は議會を操縱し得るやも知る可からざるも一に陰謀を廻らして議會の多數を制せんとして失敗せざるもの殆んど稀なり又今日以後の內閣員は年の老少は問はざるも文明主義にして新鮮なる思想に富み且つ志操堅確なる人々ならざる可からず

所謂黨略、愛黨は自由黨の特色なる由なれども黨略、愛黨とは如何なる事なるや門外漢の知り難き所なり又新內閣組織の前途につきては伊藤侯は昨今考慮中ならんが早くは一週間後遲くば來る十五六日に至らざれば組織完成せざるならん

○新內閣と警視總監

從來警視廳は內閣の爪牙と爲りて當路者の爲に高等探偵を爲すを以て其職務を盡したるものと心得るが如き有樣なりしが愈々改正條約を實施するの曉には第一東京府下の如きは外人の內地雜居住の地方より多かるべきは勿論警察の下に於て內務警察上の取締りに一層周密を要するみと云ふ迄も

織せる上は最も警視廳に

情に通じ法律の思想ある

ふ右は新內閣に立つべき

實まか當然の事なる可し

可きやと云ふに芳川子に

介氏出で、總監となるべ

とするも芳川桂の諸氏は

が故に多分同氏に任命せ

が既に辭表を差出したる

○西比利亞鐵道の●●●●●●

あり到底豫期の如くには

せし所なるが尚は佛蘭西

西部即ちユーラルより

八十四ウェルストの間其

セレンガ兩河の架橋未だ

は黑龍江バイカル湖の

岸に至る大道は竣工す

報ずる處に據れば露國の

土に出稼して甚も苦痛

したる爭の折價に鄕里

の意を表せり是れ他の

露國は之が爲めに妙か

徒は間々之を用ひ居れ

ック及び其附近には成

るみと餘り惡はしから

も多分に之を使用し

○墺國の一揆

起れる由は既にロイテ

閣の更迭と共に此等は

なきを以て之を知るべ

ーグに於て兇徒の捕へ

の爲めに佩劍に依りて

爲め瓦石に依りて傷け

二十名なりしと云ふ

○暹羅王の歸國

歸國の途に就き去月十

谷底へ向け出發せりと

○獨逸大學の盛況

加し今は總數六千名と

は四十三名なり斯く

學校舍を流用して其

○キユーバ嶋の

日のロイテル特電に

官ルーツ大佐は兇徒を

るに敵の相ふる所を

れたりとの事なりしが

の總大將ゴメツは市台を

政府の總轄する自治制

を変涉せんとするもの

に附し叛逆人として死

節斷校は固より西班牙の

の使者に對まで

從はしめんと

附し

く反徒に

乗されたる